



## 一宮西病院

診療時間：月～金 9:00～12:00 / 14:00～17:00 ± 9:00～12:00  
※診療科により異なりますので、詳しくはWEBの各診療科の担当表をご確認ください。  
休診日：日・祝 ※救急の場合は随時受付応需いたします。  
●〒494-0001 愛知県一宮市開明字平1番地 ●TEL.0586-48-0077  
●http://www.anzu.or.jp/ichinomiyanishi/

# 長期的な視野で「低侵襲」を捉え、 患者の利益のための手術を選択する

## 脊椎固定術で姿勢を保ち QOLの向上を図る

現在、整形外科の分野で熱心に議論されているものに、「脊椎固定術」によって、いかにして理想の背骨の形を追求するか」というテーマがある。国内の各大学が中心となつて地域ごとに健康な背骨のデータが収集されているという。高齢になつて背中が曲がるのは自然な変化だとする見方もあるが、実際のところ

ころ背骨を理想の形に保つことのメリットは多い。腰が曲がり、姿勢が前かがみになると内臓にも影響し、逆流性食道炎などの疾患の原因になることもある。また、活動性が低下して、寝たきりになるリスクも上がる。脊椎固定術はこうした不都合を回避し、QOL(生活の質)を向上させる方法として期待されており、一宮西病院が積極的に取り組む治療のひとつとなっている。

## 長期的な視野に立ち 患者の利益を考えた手術

椎間板ヘルニアの手術は減少傾向にあるという。神経ブロックによる保存的治療が有効で、手術を必要としないケースも多いからだ。同院ではMRI、そして、脊椎・脊髄造影検査によって見落としのないように丁寧に検査・診断を進める。しかし、画像で異常が見つかったからといって必ず手術が必要という

## Top Interview どこまでも「患者思考」



### 整形外科部長 稲生 秀文

いのひでふみ ●1992年浜松医科大学卒業。名古屋大学付属病院脊椎班、名古屋第二赤十字病院、安城更生病院脊椎・脊髄センター長を経て現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医、医学博士



明るい光にあふれたリハビリテーションルーム



開放感のある吹き抜けのエントランスホール

わけではない。保存的な治療で改善すれば手術は必要なくなる。その意味で、「神経ブロックは治療であると同時に診断の手段でもあります」と稲生秀文医師は話す。脊椎管狭窄症で手術適応となった場合、3椎間以上の広範囲の固定術については患者の負担も大きくなることから、本当に必要かどうかを慎重に判断した上で行う。稲生医師は基本となる従来法を大切に、手術時間の短縮と、筋肉をできるだけ温存する方法で負担の軽減に努めている。「何が本当の意味で『低侵襲』なのかは、傷口の大きさだけでは計れません。長期的な視野に立ち、患者さんの利益を考えるこ

とが大切です」と稲生医師は強調する。患者の多くは高齢者であり、高血圧、糖尿病、心疾患などを持つ人も少なくない。その点、同院は総合病院としての強みを生かし、他科のサポートを受けながら適切に手術を行うことができる。また、リハビリに関しては、やる気のある若いスタッフが集まっており、その姿勢に感動した患者から感謝の声が寄せられる。同院が実施する「ありがとうカード」の件数はリハビリに関するものが群を抜いて多いという。堅実な方法を重視する経験豊富な医師と、情熱的に取り組むスタッフが協力して患者を支えている。取材／斉藤雅幸